

# ConsoleDA Agent For Server インストールガイド

マニュアルはよく読み、大切に保管してください。  
製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。  
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

## -目次-

<b>1 ConsoleDA Agent For Server インストールの前に</b> .....	<b>1</b>
1-1 注意事項 .....	1
1-2 .NET Framework3.5 のインストール .....	1
<b>2 ConsoleDA Agent For Server のインストール</b> .....	<b>5</b>
2-1 インストール.....	5
2-2 サイレントインストール.....	8
<b>3 ConsoleDA Agent For Server のアンインストール</b> .....	<b>9</b>
3-1 アンインストール.....	9
3-2 サイレントアンインストール.....	10
<b>4 環境設定ファイル</b> .....	<b>11</b>

### 重要なお知らせ(注意事項)

- 本書をよくお読みになってから、製品をご使用ください。
- 本書の内容は、将来予告なしに変更される場合があります。
- 本書の内容の一部、または全てを無断で転載することを禁止します。

Copyright © Hitachi, Ltd. 2013 all rights reserved.

### 他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、SQL Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- その他、会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

以下、説明用画面は全て Windows Server® 2008 R2 上で実行したときのイメージです。

# 1 ConsoleDA Agent For Server インストールの前に

## 1-1 注意事項

- 本セットアッププログラムはサーバブレードにインストールしてください。
- セットアッププログラムでインストールされるプログラムは、下記以外での動作を保証しておりません。
  - Windows Server® 2012
  - Windows Server® 2008 R2 SP1
  - Windows Server® 2008 SP2 32bit
  - Windows Server® 2003 R2 SP2 32bit
  - Windows Server® 2003 SP2
- ConsoleDA Agent For Server のインストールを実行するには、インストールするサーバブレードに管理者権限を持つユーザーでログオンしてください。
- 本ソフトウェアは、サーバブレードの動作 OS 環境が工場プレインストールまたは「Product Recovery DVD」DVD-ROM を使用して構築した OS 環境での使用を前提としています。それ以外でご使用される場合は動作保証外となりますが、「Drivers DVD」DVD-ROM に含まれる「IPMI ドライバ」や「bd ハードウェアモニタ」ソフトウェアを OS にインストールしていただく必要があります。

## 1-2 .NET Framework 3.5 のインストール

インストールするサーバの環境によっては、下記要件のインストール画面が表示される場合があります。これらの画面が表示された場合は、「インストール」をクリックして要件のインストールを行ってください。

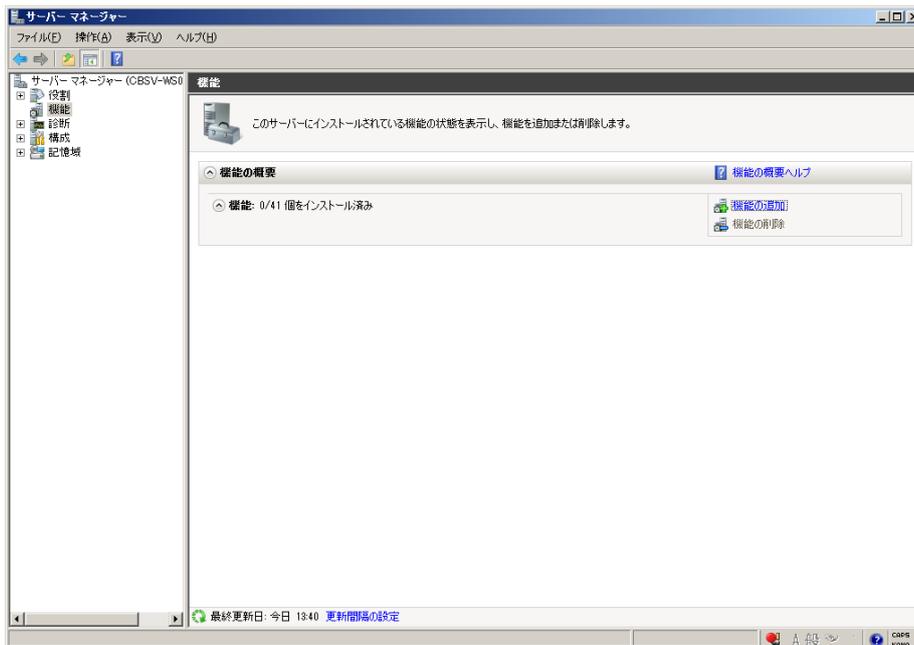


### <Windows Server® 2008 R2 SP1 の場合>

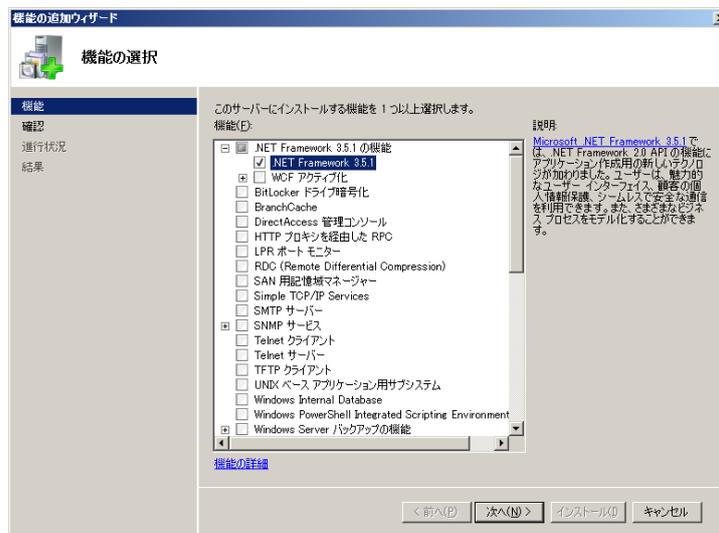
.NET Framework 3.5 を手動でインストールする必要があります。次の手順にしたがって .NET Framework 3.5 をインストールしてください。

1. サーバマネージャを起動してください。

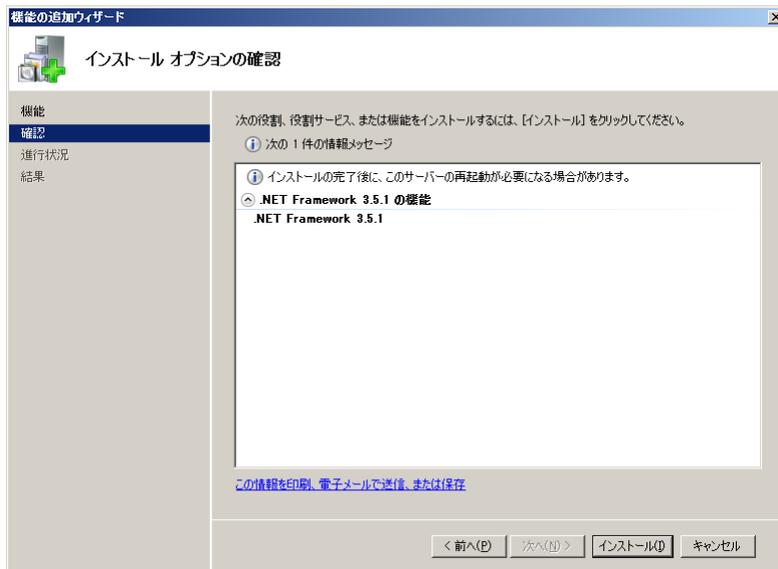
2. 左メニューから[機能]を選択し、右にある[機能の追加]を選択してください。



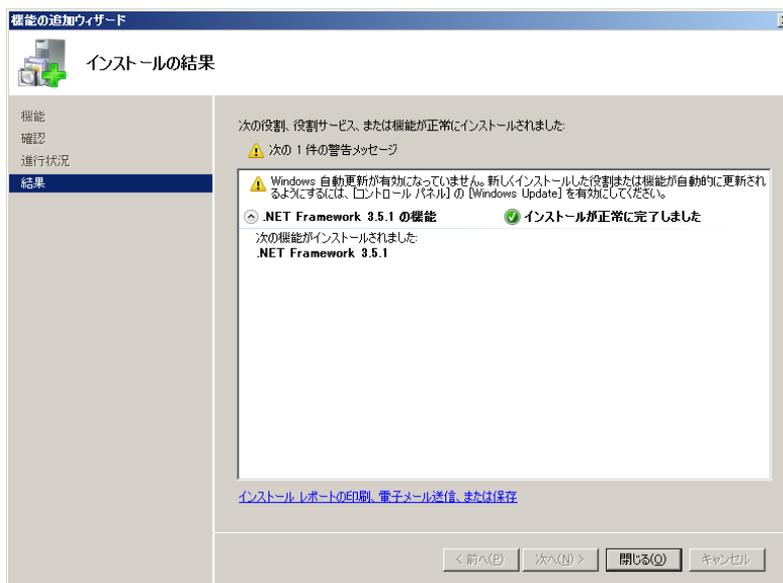
3. 画面最上の[.NET Framework 3.5.1 の機能]の[+]を選択し、「.NET Framework3.5.1」のチェックボックスにチェックし、[次へ(N)>]をクリックしてください。



4. 「インストール(I)」をクリックしてください。



5. 「閉じる(O)」をクリックすればインストール完了です。



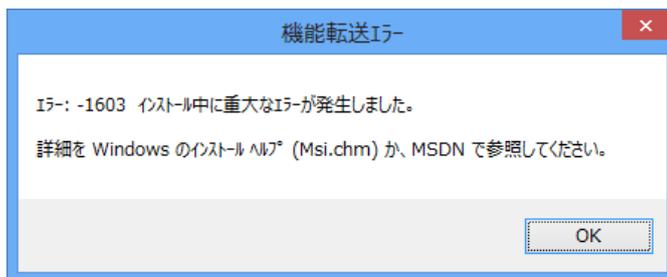
#### <Windows Server® 2012 の場合>

手動で.NET Framework 3.5 をインストールする必要があります。インターネットに接続されている場合は、コントロールパネルの「プログラムの機能」-「Windows の機能の有効化または無効化」で、.Net Framework 3.5 を有効化してください。

インターネットに接続されていない場合は、OS インストールメディアや ISO イメージを用意していただく必要があります。OS インストールメディアや ISO イメージをマウントして、コマンドプロンプトより下記コマンドを実行してください。(マウント先のドライブによって「E:¥」の部分を変更してください。)

```
Dism.exe /online /enable-feature /featurename:NetFX3 /All /Source:E:¥sources¥sxs /LimitAccess
```

.NET Framework 3.5 をインストールせずにセットアップを実行しますと、下記のエラーが表示されます。



## 2 ConsoleDA Agent For Serverのインストール

ConsoleDA Agent For Server は、インストールされたブレードサーバの電源状態や各種情報を ConsoleDA Manager に送信するプログラムです。

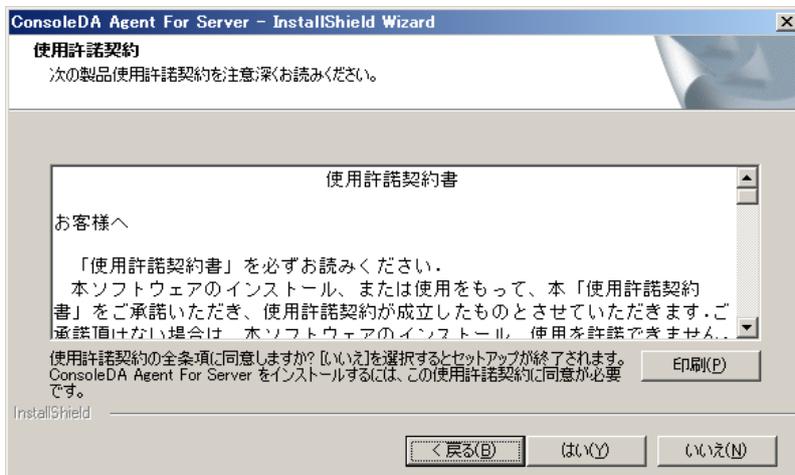
### 2-1 インストール

• ConsoleDA Agent For Server をインストールするには、次のように操作します。

1. Hitachi bd Link Version3 /SV インストールメディアの「Installer」フォルダーにある AgentForServerSetup.exe を実行し、「次へ(N)」をクリックしてください。



2. 「使用許諾契約」では使用許諾契約書内容をご確認の上、同意する場合は「はい(Y)」をクリックしてください。



3. 「ネットワーク設定」では ConsoleDA Agent For Server で使用するネットワークの設定を入力し、「次へ(N)>」をクリックしてください。



#### 入力項目の説明

- ConsoleDA Manager の IP アドレス: ConsoleDA Manager が稼働しているマシンの IP アドレス。
- ConsoleDA Manager の 受信ポート: ConsoleDA Manager にコマンドを送信するときに宛先とする TCP ポート番号。  
1～65535 の範囲で指定します。
- ConsoleDA Agent For Server の 受信ポート: ConsoleDA Agent For Server がコマンドを受信する TCP ポート番号。  
1～65535 の範囲で指定します。
- Windows ファイアウォールの設定: Windows® Firewall をご使用の場合は、チェックすると Windows® Firewall の設定を行います。
- 副 ConsoleDA Manager の IP アドレス: 冗長化を行っている場合の、副側 ConsoleDA Manager が稼働しているマシンの IP アドレス。
- 副 ConsoleDA Manager の 受信ポート: 副側 ConsoleDA Manager にコマンドを送信するときに宛先とする TCP ポート番号。  
1～65535 の範囲で指定します。

<b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ConsoleDA ManagerのIPアドレス欄には、必ずIPアドレスを入力してください。</li> <li>▪ Windows® Firewall以外のセキュリティ製品が提供するFirewallをご使用の場合は、ConsoleDA Agent For ServerからConsoleDA Managerの「受信ポート」(TCPポート)に接続できるよう、設定を調整してください。</li> <li>▪ ConsoleDA Managerの冗長化を行っている場合は、副ConsoleDA ManagerのIPアドレス、受信ポートを必ず入力してください。</li> </ul>
<b>補足</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 既定値のTCPポートが既に他の製品によって使用されている場合は、他のTCPポートを設定してください。</li> </ul>

4. ConsoleDA Agent For Server をインストールするフォルダーを指定し、「次へ(N)>」をクリックしてください。



<b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ デプロイ機能をご使用になる場合は、インストール先を変更しないでください。デプロイ機能について詳しくは、「Hitachi bd Link Version3 デプロイ機能取扱説明書」を参照してください。</li></ul>
-----------	---

5. 「インストール」をクリックし、インストールを開始してください。



6. 「InstallShield ウィザードの完了」が表示されたら、「完了」をクリックしてセットアップを終了してください。



## 2-2 サイレントインストール

ConsoleDA Agent For Server は、GUI の操作を記録したサイレントインストール応答ファイル setup.iss 作成することにより、サイレントモード(GUI なし、ユーザーによる操作なし)によるインストールを行うことができます。

・ConsoleDA Agent For Server のサイレントインストールを行うには、次のように操作します。

1. Hitachi bd Link Version3 /SV インストールメディアの Installer フォルダにある AgentForServerSetup.exe をブレードサーバの任意のフォルダにコピーします。
2. ブレードサーバに管理者権限を持つユーザーでログオンし、コマンドプロンプトを起動します。
3. AgentForServerSetup.exe をコピーしたフォルダに移動します。
4. 「AgentForServerSetup.exe△/r」を入力・実行し ConsoleDA Agent For Server インストーラーを起動します。
  - ※ 応答ファイルの作成先は、コマンドに「/f1”(作成先絶対パス)¥setup.iss”」を追加することで変更可能です。
  - ※ 作成先を変更しない場合は、C:¥windows に setup.iss が作成されます。
  - ※ 作成先に既に setup.iss が存在している場合は、これを削除してから手順 4.を実行してください。

入力コマンド例:

```
C:¥Agent> AgentForServerSetup.exe△/r△/f1"C:¥Agent¥setup.iss"
```

- ※ 上記例は、C:¥Agent に応答ファイルを作成する場合のものです。
  - ※ △は半角スペースを表します。
5. 画面操作に従って ConsoleDA Agent For Server のインストールを行います。
  6. ConsoleDA Agent For Server のインストール完了後、「C:¥windows」フォルダに応答ファイル setup.iss が作成されます。(手順 4.で作成先を指定した場合は、指定先に setup.iss が作成されます。)
  7. サイレントインストールを実行するマシンに AgentForServerSetup.exe と作成した応答ファイル setup.iss をコピーします。コピーが済みましたら、元の setup.iss は削除しておいてください。
  8. サイレントインストールを実行するマシンでコマンドプロンプトを実行し、AgentForServerSetup.exe と setup.iss をコピーしたフォルダに移動して、以下のコマンドを実行するとサイレントインストールが開始されます。

```
C:¥Agent> AgentForServerSetup.exe△/s
```

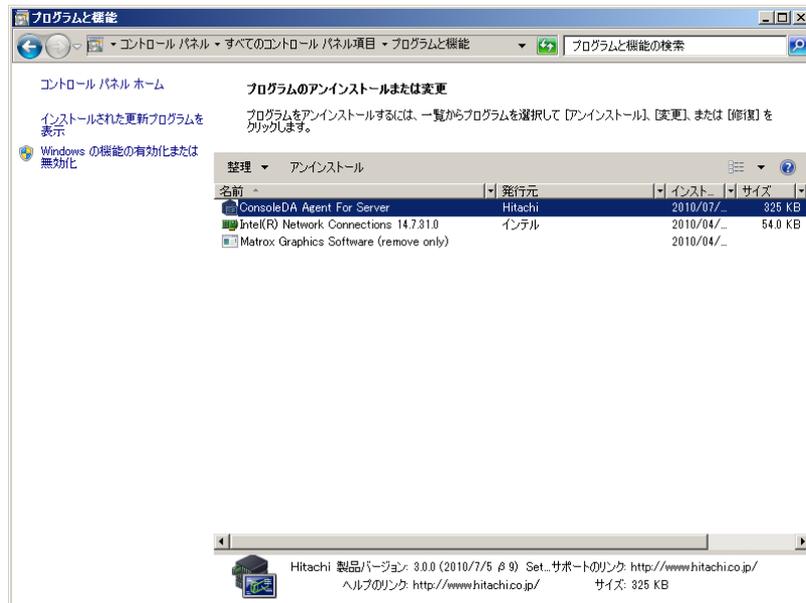
- ※ 上記例は、インストーラーと応答ファイルを C:¥Agent に配置した場合のものです。
- ※ △は半角スペースを表します。

## 3 ConsoleDA Agent For Serverのアンインストール

### 3-1 アンインストール

・ConsoleDA Agent For Server をアンインストールするには、次のように操作します。

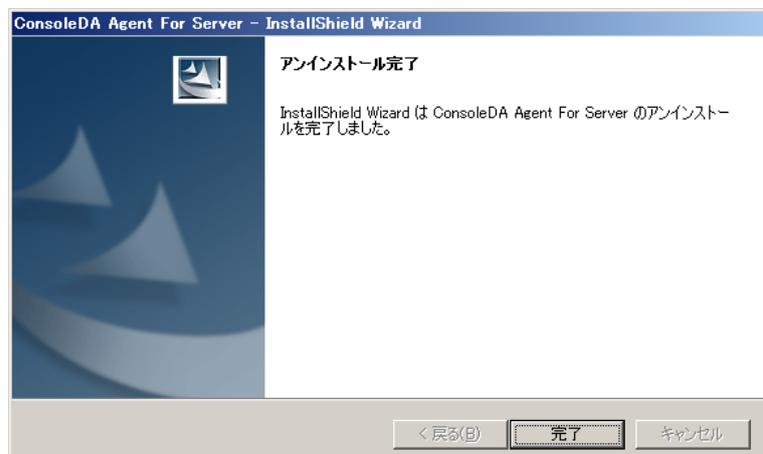
1. [コントロールパネル]-[プログラムと機能]を開き、ConsoleDA Agent For Server を選択して「アンインストール」ボタンをクリックしてください。



2. 確認ダイアログが表示されたら「はい(Y)」をクリックして、ConsoleDA Agent For Server をアンインストールしてください。



3. 「アンインストール完了」が表示されたら、「完了」をクリックしてアンインストールを終了してください。



## 3-2 サイレントアンインストール

・ConsoleDA Agent For Server のサイレントアンインストールを行うには、次のように操作します。

1. Hitachi bd Link Version3 /SV インストールメディアの Installer フォルダにある AgentForServerSetup.exe を、ConsoleDA Agent For Server がインストール済みのブレードサーバの任意のフォルダにコピーします。
2. ブレードサーバに管理者権限を持つユーザーでログオンし、コマンドプロンプトを起動します。
3. AgentForServerSetup.exe をコピーしたフォルダに移動します。
4. 「AgentForServerSetup.exe△/r」を入力・実行し ConsoleDA Agent For Server インストーラーを起動します。
  - ※ 応答ファイルの作成先は、コマンドに「/fl “(作成先絶対パス)¥uninstall.iss”」を追加することで変更可能です。
  - ※ 作成先を変更しない場合は、C:¥windows に setup.iss という名前で応答ファイルが作成されます。
  - ※ 作成先に既に setup.iss または uninstall.iss が存在している場合は、これを削除してから手順 4.を実行してください。

入力コマンド例:

```
C:¥Agent> AgentForServerSetup.exe△/r△/fl"C:¥Agent¥uninstall.iss"
```

- ※ 上記例は、C:¥Agent に応答ファイルを作成する場合のものです。
- ※ △は半角スペースを表します。

5. 画面操作に従って ConsoleDA Agent For Server のアンインストールを行います。
6. ConsoleDA Agent For Server のアンインストール完了後、「C:¥windows」フォルダに応答ファイル setup.iss が作成されるので、ファイル名を uninstall.iss に変更してください。
7. サイレントアンインストールを実行するマシンに AgentForServerSetup.exe と作成した応答ファイル uninstall.iss をコピーします。コピーが済みましたら、元の uninstall.iss は削除しておいてください。
8. サイレントアンインストールを実行するマシンでコマンドプロンプトを実行し、AgentForServerSetup.exe と uninstall.iss をコピーしたフォルダに移動して、以下のコマンドを実行するとサイレントアンインストールが開始されます。

```
C:¥Agent> AgentForServerSetup.exe△/x△/s△/fl".¥uninstall.iss"
```

- ※ 上記例は、インストーラーと応答ファイルを C:¥Agent に配置した場合のものです。
- ※ △は半角スペースを表します。

## 4 環境設定ファイル

環境設定ファイル名: Agent.exe.config

既定のファイルパス: C:\Program Files\Hitachi\ConsoleDA Agent

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<configuration>
  <configSections>
    <section name="agentConfig"
      type="Hitachi.ConsoleDA.Agent.Configuration.AgentConfigSection, Agent.Common,
      Version=3.1.0.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=null" />
  </configSections>
  <agentConfig remotingPort="60001"① modelVersion="0000100510"② logKeepDays="7"③>
    <managers>
      <manager address="192.168.0.1:60000"④ />
      <manager address="192.168.0.2:60000"⑤ />
    </managers>
  </agentConfig>
  <appSettings>
    <add key="ExcludeMac" value="005056,02004C"⑥ />
  </appSettings>
</configuration>
```

#	設定項目	既定値(設定範囲)	説明	備考
①	remotingPort	60001 (1~65535)	ConsoleDA Agent For Server のコマンド受信用ポート番号。	
②	modelVersion	<i>model-version-string</i>	ConsoleDA Agent For Server が稼働している PC のモデルバージョン文字列。	
③	logKeepDays	7 (1 以上)	トレースログファイルの保存期間。	単位: 日
④	address	<i>manager-ip-address:port</i>	ConsoleDA Manager が稼働する PC の IP アドレスとコマンド受信用ポート番号。	
⑤	address	<i>manager-ip-address:port</i>	冗長構成にしている場合、副 ConsoleDA Manager が稼働する PC の IP アドレスとコマンド受信用ポート番号を入力します。	
⑥	value	<i>005056,02004C</i>	ConsoleDA Manager への通知を行わない MAC アドレスの上 6 桁。(仮想 NIC をお使いの場合など、適宜ここに値を設定してシステム内に同一の MAC アドレス値が存在しないようにしてください。)	

※項目設定の文字列の大文字と小文字は区別されます。